

教育相談関係

機関の紹介

不登校の主な要因や支援の在り方などについては、平成十二年三月に福島県教育委員会が発行した「ストップ・ザ・不登校」に簡潔に示してありますので、是非ご活用ください。今回は、不登校児童・生徒へのより適切な支援を進めるために関係機関についてご紹介いたします。

- ・ダイヤルSOS (0120-899-714)
☆月～金 10時～17時
○電話相談 ○来所相談 ○訪問相談
 - ・教育センター (024-553-3141)
☆月～金 9時～17時
○電話相談 ○来所相談
 - ・養護教育センター (024-951-5598)
☆月～金 9時～17時
○電話相談 ○来所相談
 - ・すくすくダイヤル (0240-81-7867)
☆月～金 9時半～14時
○電話相談
 - ・県児童相談所 (0242-27-3482)
☆月～金 9時～17時
○電話相談 ○来所相談
- ※ ☆相談日・時間 ○相談方法

生涯学習だより

地域の教育力を再び

地域の教育力の低下が叫ばれて久しい。少子化と相まって子どもの育成に大きな影響が出ている。先日、ある高齢者からこんな話を聞いた。「目の前を通り過ぎる下校途中の生徒に『お帰り』と声をかけた。一見突っ張りふうのその生徒は、『ただいま』と返事をした。いつもは恐ろしい顔をして通り過ぎるのに、その時は、とても優しい顔になっていた。」

その生徒は、普段話もしたこともない人からあいさつをされて、知人や家族から声をかけられたのと同じように返事をする事ができたのである。ただこれだけのことであるが、現代の世の中では大変めずらしいことのように感じる人が多いのではないだろうか。地域に住んでいる人たちが、どの子も我が子、あるいは孫という意識を持って接することができるのなら、どんなにすばらしいことだろう。何十年か前までの日本にはそれがあつた。今、改めてその当時の地域の教育力の偉大さを知っている。

これからの子どもたちのことを考えると、今、私たちは何かをしなければならぬと強く思うのである。そのためには、家庭も地域も学校も同一の価値をもって、同一の行動態度を示すことによって、子どもたちが健やかに育まれていくのではないかと思わずにはいられない。そうした取り組みの事業として県では「家庭教育地域フォーラム」を実施する。このフォーラムでは、地域の家庭教育指導者や核となつて活動している人等に対して、地域における家庭教育の充実・方策についての学習や情報交換の機会を提供するとともに、地域の子育て環境づくりやネットワークづくりの在り方の協議をおして、家庭や地域の教育力を向上させることをねらいとしている。

この取り組みを進めることによって、地域が協力しあう基盤ができ、活動の成果がやがて地域の教育力が向上することを期待しているところである。そこで、一年生は「自分理解と相手理解」さらに「地域理解」として村の伝統文化調査に取り組んだ。調査の対象を村全体とし、隔週二時間の「総合学習の時間」を使って、村役場や教育委員会、公民館、各地区の古老、有識者などに自分で電話をかけ、アポイントを取って取材に出かけた。

調査結果や成果をさまざまにアレンジしての発表は、参観者の感動を呼び、参観者からの多くの賞賛が生徒たちの自信を生み、以後の学校生活への意欲を生み出した。



特色ある学校紹介

総合的な学習の試行

高郷中学校長 池田茂行

本校では、「さまざまな体験を通して主体的に自分の力で生きていく力を育てる」ことを目標に掲げ、総合的な学習の時間として、「国際理解教育」を柱に各学年ごとのテーマに取り組んできた。

業である「中学生海外派遣事業」の韓国ソウル市新上中学校との交流会の準備を主にして取り組んだ。交流会の準備や、ホームステイに備えての会話練習、お世話になる家庭へのおみやげ作成などで、予定した時間はすくなくなくなる。

「国際理解」はまず自分の足下を固めることから始めたい。なんとすれば、自分、自分の友達、自分の村、自分の郷土を、自分の国日本についての理解を持って話すことができなければ、他の国との有意義な交流はできないからである。

三年生は、昨年の韓国訪問の経験を生かして韓国以外の国との交流をしようという取り組みを始めた。世界の国々から交流相手を選び、インターネットを利用してのEメールでの交流、ビデオレターの交換に取り組んだ。総合学習の成否は、学習の成果を子どもたちにどう意識化できるかにかかっている。本校では、各学年の取り組みを保護者や地域社会の方々に見てもらい、評価してもらうために、文化祭を発表の場として位置づけた。

私の実践

不登校生徒の自己実現を図る指導

会津若松市立第三中学校 教諭 遠藤博晃

昨年六月下旬、T男との校門待ち合わせが始まって、もうすぐ一年になるとうとしている。初めは、母親と一緒に校門まで。車から降りずに、私と会って三分もしないうちに帰宅する。そんなT男が、七月には、昇降口まで入ることができるようになり、夏休み前には保健室や職員室、さらには、教室まで入ることができるようになった。朝の

短い時間と夕方の家庭訪問で、よき姿容を家族と一緒に認め、勇気づけを繰り返していったある日、「不安や抵抗がなくなってきた。」と話すようになった。そのころ、A男が校門待ち合わせに参加することになった。私が少々遅れてもA男と教室まで行くようになったのである。相変わらず八時ごろ帰宅するが、A男を中心に、友達との触れ合いや会話が増えたのもこのころ

からである。十二月には、自分から授業に参加するようになった。三年生になった現在は、ほとんど休まず登校している。そして、最後の中体連野球大会にも参加し仲間と一緒に優勝の喜びを味わうこともできた。一年前にはなかった笑顔が学校のあらゆる場面で見られるようになった。その笑顔には、大きなハードルを乗り越えたという自信と心の成長が感じられた。

河東の文化財

河東町教育委員会 主査 五十嵐純

地域に学ぶ

河東町には、数多くの文化財が残されています。ここでは、その中でも延命寺と八葉寺について述べます。

延命寺は藤倉地区にあり、地蔵堂は俗に藤倉二階堂と呼ばれ、国の重要文化財に指定されています。二層の屋根が特徴で、以前は茅葺であったものが、大正時代初期の改修の際に瓦葺に改められました。

地蔵堂の創建は大同二年(八〇七)、飛騨の大工、水口八右衛門の作と伝えられ、現存の建造物は室町時代初期から中期にか

けての建立とされています。警備町恵日寺所蔵の永正古図(永正八年・一五一一)と図示されていることから、その当時は恵日寺諸院の一つだったことがわかります。堂中には、地蔵菩薩像を安置しています。

八葉寺は冬木沢地区にあり、阿弥陀堂が国指定の重要文化財です。康保元年(九六四)、空也上人の開基とされています。

言ひ伝えによれば、空也上人が陸奥の国に入ろうとしたところ、当地の桂の木の上に瑞気(神々しい雰囲気)を感じ、堂を建てたということ。八葉寺の名の由来については、空也上人が井戸を掘ったところ、清水が湧き出し八葉の蓮が生じたため名付けられたとされています。



空也念仏

八葉寺は「会津の高野山」と言われ、毎年八月一日〜七日に会式が行われます。その年に不幸があり喪中が過ぎた家庭は、この会式中、木製小型納骨器に死者の遺骨などを入れて阿弥陀堂に納めます。

管理課重点事項

学校事故・教職員の事故防止については、各市町村教育委員会や各学校にご努力いただいておりますが、今後、更に学校事故の絶無に向けてなお一層の努力をお願いいたします。

一 教職員の事故防止

- ①信用失墜行為の絶無
- ②酒気帯び運転や飲酒運転、体罰、わいせつ行為、セクシャルハラスメント等の絶無を期すため、「高い倫理観と自立心を求めて」(福島県教育委員会・平成十二年三月)を資料として校内研修を行う機会と場を設定する。
- ③交通安全防止
- ④交差点での事故や出合い頭の事故が発生しているの、ゆとりを持った運転や左右確認の励行に努める。
- ⑤教職員のメンタルヘルス
- ⑥教職員が一人で悩みを抱え込まないで何でも相談しあえる職場づくりに努めるとともに、教職員相互の

中世から続くこの習俗は全国的にも大変珍しいものです。納骨器の総数は約一万五千体で、現存する最古のものは、文禄四年(一五九五)銘のものです。会式中の八月五日、午前十時より、境内で空也念仏が奉納

- ⑦生徒指導に関わる事故に際しては、犯人さがしなど児童生徒の人権に抵触する言動がないように留意する。
 - ⑧児童生徒からの集金を適切に管理し学校に置かない。
 - ⑨かぎの特質を知り、触手施設など完全施設の徹底に努める。
 - ⑩施設設備の安全管理
 - ⑪学校プールの薬品の取扱について全職員の研修を行い、事故防止に努める。
 - ⑫石油の地下タンクやホームタンクの残量メーター等の点検を日常化し、異常の早期発見に努める。
- 各学校の事故防止マニュアルの改善に努めるとともに、一人一人の教職員の危機管理意識の向上を図り、事故防止に努める。
- されます。本拠地京都でもその原形は残っていないため、貴重な民族文化財です。
- これらの文化財は我々の大切な遺産です。一人一人が身近な文化財に関心を持ち、守り伝えていきたいものです。

私の抱負

ふるさとを思う子に

三島町立三島中学校

校長 佐藤 孝信



「わがふるさと
は、むらさきに
染まる 縄文の
愛は、宇宙から
のメッセージ」

只見川は力あふれ、三坂山こぼし
花咲く、匠こころ学び」

これは、我が三島中学校校歌の
一節です。自然に恵まれ、こころ
優しい地域の人々に見守られ、生
き生きと学校生活を送っている子
どもたちと、充実した毎日を通じ
し、一人一人の生きる力の育成へ
の責任の重さを痛感している。
子どもたちの自信にあふれた大
きな声での校歌を耳にするたび、
ふるさとへのよさを見だし、ふる
さとのために生きる人に成長して
欲しいと願わずにおれません。

恵まれた環境を生かして

北塩原村立眞野小学校

教頭 山田 幸司



湖、沼、湿原
など美しい自然
に恵まれた眞野
高原に位置する
眞野小学校。

子ども達と一緒に探索することで
改めてそのすばらしさに感動して
いる。また、先日行われた村民合
同運動会では、学校・保護者・地
域の一体感こそ開かれた学校その
ものであると思つた。このように
恵まれた環境の学校に赴任して益々
責任の重さを痛感している。
「人は環境をつくり、環境は人を
つくる」という。私は、この言葉
を胸に刻み、「子どもを愛す、学
校を愛す、地域を愛す」をモットー
に取り組んでいく所存である。

自分らしさを求めて

会津若松市立日新小学校

教諭 露地 里美



私の勤務校の
校歌は「眞野山
を仰ぎつつ 希
望に燃えて」と
始まる。今の私
には目標がある。

それは子どもが新しい自分に出
会える授業をすることだ。興味あ
るものを見つけたら、学習したこ
とを自分の関心事とつなげたりし
て、自分の考え方や感じ方、つま
り自分らしさを見つめる授業がで
きるようになりたい。
そのために、私も教師としての
自分らしさは何かを求め、山頂目
指して一歩ずつ登るよう子どもと
ともに歩み、学んでいくつもりだ。

心に残る人々

会津坂下町教育委員会教育長 高久庄三



教員になっ
ていわき市四
倉町をスター
トに高田一中
まで十一の市

町村で多くの皆様温かいご指
導をいただき心より感謝してい
る。
長い教員生活の中で、特に心
に残るS校長先生がおられる。

二十代の頃、統計教育の指定校
に勤め大変勉強になった。赴任し
て初めての宿直の日には、S先生
から「実力をつけておけば、公開
授業など心配ない」と毎日の授業
実践の充実を図ることの大切さに
ついてご指導いただいた。小生は
数学のつまずきの分析と誤答例を
生かした実践に努めた。継続は力
なりで、一人一人に着実な力と方

向づけができた。
また、猛吹雪の朝のこと、地吹
雪で前進できなくなり、その時の
判断は、急がば回れでした。この
時は、雪道は毎日が初心者なりと
いうことを教えていただいた。
S校長先生の「教育の主役は子
どもなり」という教えは、教師と
しての最高の宝であったと感謝し
ている。
豊かな人間性と教育愛あふれる
お人柄は忘れることができない。

絵

絵になった文字たち

会津若松市立校長小学校
四年 押部 ころ



〈指導の工夫〉
たくさん思いや願いがこめら
れた子どもたちの名前「サイン」
をするつもりになって、絵文字に
してみました。
線の形や大きさ、色を変えたり
文字を重ねたりするうちに、リズ
ムが生まれ、文字は違う表情を見
せる。
線で区切られた画面をカラフル
に飾って楽しんだころころさん。
形や色へのこだわりが、こんな
印象的な作品になった。
指導者 佐藤 めぐみ

作品と指導

絵



「手ぶくろを買いに」を読んで

熱塩加納村立加納小学校
三年 外島 愛子

〈指導の工夫〉
「手袋を買いに」のお話を聞
いて、一番好きなどころころを絵に
かかせた。
かわいいうきつねに自分の願
いや思いをこめて下絵をかかせ、
主人公や冬の夜の様子が出るよ
うに色使いも工夫させた。
愛子さんの思いが、体を寄せ
合って速くの町を眺める親子の
きつねに表現されている作品で
ある。指導者 小林 美智子

習字

朝風

柳津町立柳津中学校
一年 猪俣 拓也

柳津中 猪俣拓也

〈指導の工夫〉
真っ白な半紙に、真っ黒な墨で
「朝風」から思い浮かぶ、風をイメー
ジするように書いてみよう。これ
が、この「朝風」を書くにあたっ
ての目標であった。
この作品からは、のびのびと書
かれる線、力強く折れる角から、
朝露に濡れる新緑の中を、そっと
吹き抜ける優しくすがすがしい風
が感じられる。
指導者 星 了